

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園
平成29年度の教育活動等に対する学校評価書

平成30年2月26日実施

学校法人鈴木学園しらゆり幼稚園長

山本 環

学校法人鈴木学園しらゆり幼稚園学校関係者評価委員長

北島 良子

学校法人鈴木学園しらゆり幼稚園学校関係者評価委員

高橋 尚代 ・ 小原麻衣子 ・ 竹内俊二

| | |
|----------|---|
| 教育理念 | 真に自由に個性を伸ばしながら正しい人間形成を目指すには、優れた教育者との出会いと適切な環境が必要である。 幼稚園は、子ども達が初めて社会生活を体験する場であると同時に、生涯を通じた財産である様々な能力の礎を築く大切な時期である。 しらゆり幼稚園は健康と情操教育を重視した教育に努め、仲間と協力しながら自然体験や社会経験を重ね、五感を使って感じ取り、考え、主体的に行動することを通して、個性と能力を伸ばす教育をおこなう。 |
| 教育方針 | 孝友三心 一、親を思う心 一、友を愛する心 一、自分を見つめる心 |
| 教育目標 | 一、体の丈夫な子 一、心の豊かな子 一、よく考える子 自然に恵まれた教育環境のもと、『孝友三心(親を思う心・友を愛する心・自分を見つめる心)』を建学の精神とするとともに、『健康は一生の宝』という言葉を念頭に置き、体の丈夫な子、心の豊かな子、よく考える子を育てることを園の目標として教育に努める。 |
| 本年度の重点目標 | 『 子どもの育ちを捉え、ほめて伸ばす教育 』 ◎発達段階に応じた運動あそびの研修をすすめ、目標に向かって頑張る力を育てる ◎施設・設備や園周辺の自然環境を活用し、遊びの充実を図る ◎子どもが自ら英語に触れたり、楽しめる環境を構成する。 |

自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

* 自己評価は、4(はい)、3(大体あてはまる)、2(あまりあてはまらない)、1(いいえ)の数値で表す * 下段は昨年度との数値差

* 委員会評価は、4(十分に成果があった)、3(成果があった)、2(少しの成果があった)、1(成果がなかった)の数値で表す

| 評価対象 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価委員会 | |
|----------------------|--|-------------|---|------------|--|
| | | 評価点 | 幼稚園としての反省と改善策 | 評価点 | 意見 |
| I 保育の計画性 | 園の教育理念や教育目標を理解し、幼児の実態に即した指導計画を作成し、活動の展開に応じて幼児が主体的に関わりたくなるような環境を再構成している。 自分の保育に対し、常に評価・反省をおこない、次の保育に生かせるようになっている。 | 3.3 +0.1 | 30年度より【幼稚園教育要領】が一部改正されるのにもない、教職員で新教育要領の共通理解を行った。 来年度はさらに幼児が自ら考え、工夫し、協力して活動できる保育環境を整えていく。 自分の保育に対する評価・反省を次の保育に生かすことはできているので、今後は互いの保育に対して評価・反省を実施していくよう努める。 | 4 | 園の教育目標・教育理念が保育や行事に反映されていると感じられた。 季節に合わせた行事や自然体験など、子ども達の五感を刺激する教育ができていた。 運動、勉強、芸術などバランスよく教育されていた。 先生方の会議により、各々が常に評価・反省できる環境があり、保育に生かされていると感じる。 |
| II 保育の在り方、 幼児への対応 | 怪我や事故、体調管理には特に気を付け、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけを行っている。 一人ひとりの幼児をよく観察し、発達の姿や課題について見通しを持って理解している。 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方を工夫し、幼児が行き詰っている時に適切な援助をしている。 | 3.6 +0.2 | 園内の安全点検項目を見直し、安全で清潔な環境を整えることに努めることができた。 万一の災害に備えた避難訓練もマンネリ化しないような工夫をし、園児と一緒に防災・防犯意識を高めることができた。 幼児一人ひとりに応じられる保育を心掛け、実践することができている。今後も発達障がいなどの理解に努め、見通しを持った保育を工夫していく。 | 4 | 園児の活動の場は整理整頓がされており、掃除や衛生管理が徹底されていると感じる。災害・防犯対策も行われており、大きなトラブルなく、安心安全に園生活を送れた。 園からの お便りに毎月の保育のねらいや子どもの姿があり、援助の工夫に見通しがあることがわかる。給食指導など個々の状況に合わせ、見通しをもって援助していると感じる。 子ども間のトラブルも、先生が解決するだけでなく、解決方法を子ども達に考えさせ、納得できるよう援助している。 |
| III 教師としての資質 と能力 | 全ての幼児について教職員同士で話し合い、共有理解をするように心がけている。 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている。 保育外でも教師としての誇りと自覚をもった言動をこころがけている | 3.5 -0.1 | 昨年度実施できなかった教員同士の保育を参観する機会を設けることができた。次年度は互いの保育を評価しあい、自己の資質向上に役立てたい。 毎日の打ち合わせで幼児のこと、クラスの出来事などを報告することで、教職員全員で全園児を理解し見守ることができている。 行事实行委員や締め切りのある仕事など、責任をもって実施するように心がけている。 | 4 | 担任以外の先生も子どものことをよく知っており、園全体で見守っていることが感じられる。 子どもや保護者に対して思いやりをもって接し、公平に対応している。 親が疑問に思ったことに関してもおどろきにせず、向き合って解決してくれる。 行事などでは、その子の個性に合った配役など、よく考えていると感じる。 |
| IV 保護者への対応 | 保護者からの相談などには心を開いて、よく話をきくように心がけている。 保護者・園児の個人情報はしっかりと管理し、漏えいしないように注意している。 クレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告・連絡・相談している。 | 3.6 +0.1 | 保護者の住所や電話番号などの個人情報の管理義務を遵守を心掛けることができた。 フェイスブックやブログを活用して日々の子どもの様子を発信できるよう努めている。今後は個々の様子を伝える工夫をしていきたい。 保護者からの欠席や預かり保育の予約が簡単になるように『れんらくアプリ』を導入した。次年度から活用していく。 | 4 | 日中の子ども達の様子がフェイスブックやブログで分かるのはありがたい。また、個人情報を消すなどの配慮がされている。 心配事を相談したときは話をよく聞いてくれた。何もなくても園での様子などを話してくれて、良かった。 毎日でなくても良いが、個々の様子を簡単に伝えるアイテムがあると更に安心できるので、検討してもらいたい。 |

| 評価対象 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価委員会 | |
|-------------------------|--|-------------|--|------------|---|
| | | 評価点 | 幼稚園としての反省と改善策 | 評価点 | 意見 |
| V 地域の自然や 社会とのかかわり | 地域の人々とかかわりを持つように心がけている。 地域の自然や道路の安全状況などについて理解するよう努めている。 小学校との連携に努めている。 | 3.1 ±0 | 園外散歩などに出かけた際は、一般の人々に積極的に挨拶するなど関わるよう努めているが、近隣住民とのふれあいは少なかった。 今年度も地域の小学校との交流学習を取り入れ、連携することができた。次年度は老人会との交流会を計画している。 | 3.6 | 近隣小中学校との交流、園外散歩などにより、地域の人々と関わる機会を作っている。卒園児も小学校の運動会や授業参観などに先生が来てくれたことを喜んでいる。 園児が日大中キャンパス見学に行けたら良いと感じる。 自然災害、野生動物出没情報等の地域安全情報もよく把握し、園児たちの安全を考えている。 |
| VI 研修と研究 | 園内研修や外部の研修会には自己課題をもって進んで参加している。 幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する自己研究を行っている。 災害・不審者侵入など危機管理について研修を行っている。 | 3 ±0 | 教職員一人ひとりが年に1回以上は外部研修に参加し、園内研修で報告し、保育の向上に努めることができた。 今年度からは海外研修としてフィンランドの幼児施設で教員研修を実施した。来年度からも海外研修を続け、教育の幅を広げるよう努めていく。 外部講師を招き、さすまたを使用した教職員の防犯訓練を実施した。 | 4 | 外部研修、海外研修への参加報告により、先生方が新たな取り組みを意欲的に実施しようとしていることが分かる。今後も国内外問わずあらゆる場所の教育現場を見て、しらゆり幼稚園の教育に活かして欲しい。 災害・不審者侵入などの危機管理も訓練している。 |
| VII 本年度の目標 | 『子どもの育ちを捉え、ほめて伸ばす教育』 | 3.2 +0.4 | 第2園庭を改修し、大型複合遊具や菜園のある『冒険ランド』を整備したことにより、子どもたちの戸外あそびが充実し、運動遊び・食育活動を充実させることができた。 学年の廊下に他学年の絵を掲示したり、他学年の発表を見学することで、他学年の活動に興味を持ち、成長の相互効果があった。 毎日の保育に『イングリッシュタイム』を取り入れ、全学年が毎月同じテーマの英語に触れることにより、英語に興味を持つことができた。 | 4 | 様々な活動の場を園児に提供することにより、新たな子どもの可能性を捉えられたと思う。 他学年との交流により他学年の活動に興味を持ち、縦割り保育は園児の成長に不可欠だと感じた。 個々の育ちをいつも褒めてくれていて、自信や夢につながっている。褒めて伸ばすことにより先生との信頼関係ができ、子ども達は新たに取り組む意欲が出るのだと感じる。 |
| 総合評価 及び 今後の課題 | <p>大型の複合遊具が設置され、戸外あそびが活発になり運動能力を伸ばすことができた。今後は年齢に即した目標を提示し、目標に向かって頑張る工夫をしていきたい。</p> <p>しらゆり菜園を園地内に移設したことにより、植物の生長を身近に観察することができた。自然物を利用した遊びがもっと広がるような工夫を続けていく。</p> <p>常勤の英語講師の存在により、英語が身近になった。次年度からはICT教育も取り入れ、次世代を担う子どもの育成に努める。</p> <p>幼稚園教育要領を共通理解し、幼児期にふさわしい生活やあそびの場を整え、あそびを通して総合的な指導ができるよう努める。</p> | | | | |
| 学校関係者評価 委員からの意見 | <p>幼稚園が現状に満足せず、良いと思ったことを取り入れてくれる姿勢は子ども達にとっても、親にとってもありがたい。これからも進化してほしい。</p> <p>特に今年度は新しい大型複合遊具の導入、今までよりさらに多く英語に触れられる『イングリッシュタイム』など新しい物や活動を取り入れつつも、従来の日本人として忘れてはいけない伝統的な行事や、安全面の強化も怠らずに努めていた。</p> <p>これからの国際化社会、情報化社会と明らかに自分が子供の頃とは異なってきている社会の流れに、先を見据えた教育を積極的に取り入れてほしい。</p> <p>しらゆりの子どもたちは全てバランスよくできるようになり、小学校へ進学しても困ることがない。しらゆりの卒園児達は優しいという話を地域の方からよく聞く。</p> | | | | |